

特 集

タイトルも一新！

「2017 春スキーの集い」 スキルアップ研修会開催

広 報 部

平成26年、9年ぶりに復活した「ベテ研」と「ベテラン指導者研修会」は、3年目に「2016 ニセコ春スキーの集い」ベテラン指導者研修会と名称を変更して開催し、前年を上回る36名の参加者となり、名称変更の効果が現れました。

参加者からのアンケートや道協会理事会等での意見交換の結果、今季からはベテランという名称を使用せず、年齢制限も解除し、申込期日も大幅に緩和しました。

4年目を迎えた今年は、道連の協力団体として当協会が運営責任団体となり、タイトルも「2017 春スキーの集い」スキルアップ研修会と改称、参加料金も2万7千円とリーズナブルな価格としました。この大幅改革が効いたのか、大好評の懇親会が人を呼んだのか、参加者数は昨年と同数になりました。

今季は平成29年4月7日（金）～9日（日）まで、ニセコグランヒラフ会場で開催、今回の研修会もリピーターの方が半数を超え、少しずつではあるが、底辺が広がってきたという手ごたえが感じられる研修会となりました。



開会式風景

毎回そのシーズンの女子のトップデモが講師に当たること、昔の研修会のように参加者同士が十分なコミュニケーションと、飲みにケーションを取れる雰囲気が好評の一因であることは間違いのないところか。4回目にして、何とか継続開催していけそうな雰囲気を感じることができました。



大場デモ（右から3人目）を囲んで旭川の先生

松本前道連教育本部長と、当協会の藤島会長の熱い思いが結実した結果であり、第1回から携わってきた一人として、素直に喜ぶ気持ちである。

今回の参加者の平均年齢は、64.5歳と昨年より若干若返りました。最高齢は84歳、若手は39歳、女性は昨年より1名多い11人の方々が参加されました。班編成も各班12名ずつの3編成、講師は日替わりのローテーション制で、3日間で全コーチに指導してもらえるシステムとなっています。

4年目を迎えた今回の研修会は、3日間とも好天に恵まれ、初めて全スケジュールが日程表通りに消化されました。

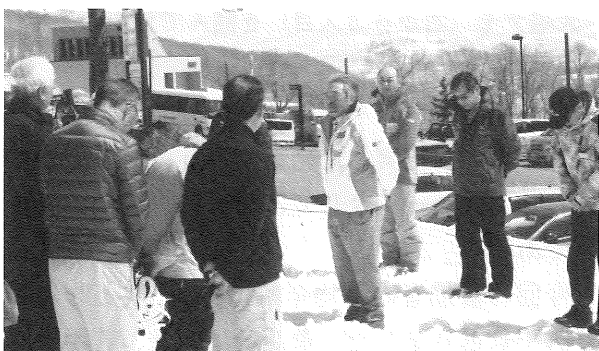
初日、4月7日は快晴。秀峰羊蹄山を背にホ

テルニセコアルペン前のゲレンデにて、三浦総務主任の司会進行で開会式が行われました。



司会進行は三浦総務主任（左端）

責任者挨拶では、初参加の吉村道連理事（函館）から自己紹介を兼ねて、「浜なまり」のユーモア溢れた挨拶と、怪我のない研修会となるよう激励があり、協力団体責任者として道協会藤島会長から、この研修会の特色でもある女性トップデモのPRと、3日間怪我のないよう実りある研修会にしてくださいと挨拶がありました。続いて、来賓挨拶ではホテルニセコアルペンの佐藤副統括総支配人から、毎年ご利用のお礼の言葉があり、教師紹介では、浜辺主任講師から3名のデモ紹介がユーモアいっぱいに行われ、参加者からは爆笑と大きな拍手で迎えられました。



挨拶する吉村理事

和気藹々の雰囲気スタートした研修会は、恒例の参加者全員で記念撮影の後、800米台地で快晴の羊蹄山をバックに、各班ごとに記念撮影。この後、3名のデモによる模範滑降が行われ、800米台地上部からフリココースの悪雪の中、小回り、大回り、総合滑降と3種目の演技を披露、その都度浜辺講師から各デモがどんな

点を注意したり、心掛けているのかなどをインタビュー形式で紹介、解説等も加えるなど内容あるデモンストレーションとなりました。

この後、各班ごとに15時まで実技研修テーマに取り組み、16時から理論研修へ。



小回りの演技を見る参加者達

理論研修では、吉村理事が挨拶と自己紹介を兼ねて、地球温暖化に伴う自分の生業である漁業の仕事について、ユーモアを交えて熱弁をふるいました。特に、自分が責任者を務める川汲漁協の悩みや、昆布漁師でもある自分の仕事の紹介、大謀網発祥の地である川汲漁協でも温暖化による影響があり、漁獲する魚の種類が変わってきて、暖流系の魚である真鯛やブリ・イナダなどが獲れだし、北の魚の定番であるホッケやスケトウダラが減ってきたことなどを話してくれました。



吉村理事の話に聞き入る参加者